

【公表】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 運動療育センターキーツ・トリー		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 2 月 16 日 ～ 令和 8 年 2 月 22 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 10	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和 8 年 2 月 2 日 ～ 令和 8 年 2 月 14 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 5 日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による支援体制	保育士、理学療法士、社会福祉士など多職種のスタッフが連携し、子ども達一人ひとりの発達状況や特性に応じた支援を行っている。 定期的にケース共有やミーティングを実施し子ども達の様子や支援内容について情報共有を行いながら支援の質の向上を図っている。	今後も外部研修や事業所間の情報共有を通して専門性の向上を図り、より多角的な支援が提供できる体制を強化していく。
2	少人数制による運動療育 重点を置いた構成	少人数グループでの運動プログラムを実施し子ども達一人ひとりの体力や発達段階に合わせた運動支援を行っている。 リズム運動やサーキット運動などを取り入れ楽しみながら運動能力や社会性を育む療育を実施している。	各事業所間での運動プログラムの共有や改善を行い、子どもたちがより楽しみながら取り組める運動療育の充実を図っていく。
3	学習支援を取り入れた療育	児童の発達段階や課題に合わせた学習支援を行い、集中力や理解力、コミュニケーション能力の向上を目指している。 運動療育と組み合わせることで、身体面と認知面の両方から発達支援を行っている。	教材や課題の見直しを行いながら子ども達の興味関心に合わせた学習内容を取り入れ主体的に取り組める環境づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない	主な支援時間が午前中かつ短時間であることから外部との交流が少ない傾向にある為、地域との接点を持ちにくい。	近隣施設や小規模イベントとの連携を検討する。運動の時間が確保できる範囲で地域との交流を段階的に取り入れる計画を立てる。
2	子ども達の発達差への対応	子ども達の年齢や発達段階に差があるため同じ活動でも難易度にばらつきが生じることがある。	運動プログラムや学習課題の難易度を複数段階に分けることで、それぞれの児童に合った支援を行えるよう工夫する。
3	保護者とのコミュニケーション 頻度・内容にばらつきがある	月に1回、活動風景の写真を送付しているが、職員ごとの声かけや補足連絡の頻度や内容に差があり、保護者によって情報量に偏りが生じている。	月1回の情報共有を基本としつつ、伝える内容のすり合わせをし、誰が対応しても同じレベルの情報が保護者に届くようにする。加えて、連絡帳や口頭での補足説明が必要なケースは職員間で事前に共有し、対応の偏りを減らす体制を整える。